

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572200154
法人名	有限会社 鶴鶴
事業所名	グループホーム せきれい
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字押方1303-4 (電話) 0982-72-2384
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年7月25日

【情報提供票より】(20年 8月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	平屋	階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(7月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.1 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤医院 増井歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高千穂町の中心地より熊本方向へ車で約10分、民家が点在する静かで落ち着いた環境の中にホームは立地している。利用者は近くの公民館での老人会との交流や近隣の保育園、小学生の来訪、婦人会の慰問等地域住民の一員として地域とつながりながら暮らしている。又、施設長が人材育成に力を入れ、法人内外の研修に積極的に職員を参加させ、レベルの高いケアが実践されている。利用者の平均年齢は88歳と高齢であるが、明るく親切な職員に支えられて全員元気で表情も明るく安心して暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価については、職員会議や運営推進会議に報告され、介護計画の見直し等の課題に取り組み改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義や目的を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、役場職員、公民館長等幅広い立場の人が参加して検討事項や懸案事項を話し合い、その結果を踏まえてサービスの向上に活かす努力をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会やぶどう狩り等ホームの行事に出来るだけ多くの家族の参加を呼びかけ、コミュニケーションを深める中から、家族の意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月開催される公民館でのいきいきサロンで老人会との交流や近隣の保育園、小学生の来訪、地区婦人会の踊りの慰問等地域との交流を積極的に行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた環境の中で利用者が安心して暮らし続けることが出来るように、職員全員で話し合い利用者本位の独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念について掘り下げて話し合い、具体的なケアの実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月開催される公民館でのいきいきサロンで老人会との交流や近隣の保育園、小学生の来訪、地区婦人会の踊りの慰問等地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、評価の意義や目的を職員会議で話し合いサービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果については職員会議や運営推進会に報告し、具体的な改善に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、役場職員、公民館長等幅広い立場の人が参加して、検討事項や懸案事項を話し合い、その結果を踏まえてサービス向上に活かす努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長自ら役場を頻繁に訪問し、町長をはじめ担当職員と対談の場を設け、要望や意見等話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態等をきめ細かに伝えている。又、2か月～3か月に1回写真を添えて利用者の近況と金銭管理について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やぶどう狩り等ホームの行事に出来るだけ多くの家族の参加を呼びかけ、コミュニケーションを深める中から、家族の意見や不満が出やすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の家庭環境等に配慮して、出来るだけ働きやすい勤務体制を整え、離職や異動を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れ、法人内外の研修に積極的に参加させている。又、研修結果は復命書を作成し職員会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高千穂町内の福祉施設の連絡会や県北部グループホーム連絡協議会に参加して勉強会や情報交換を行い同業者との交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者、家族にホームを見学してもらったり、職員が自宅に出向くなど徐々に馴染みながら利用に移れるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から農作物の育て方や団子作り、昔の料理方法等多くを学び、お互いの信頼関係を築きながら共に支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式をアセスメントに取り入れ、利用者一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について意見交換を行い、利用者や家族の希望を充分反映した利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月に1回実施している。又、心身の状態に変化が見られる場合には随時見直しを行っている。		状態に変化がない場合にも、毎月のモニタリングを活かして新鮮な目で月に1回は介護計画の見直しを行なってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に応じて、通院、特別な外出、墓参り、自宅への帰宅等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に継続して診てもらっている。気軽に相談できる関係にはあるが、医師の高齢化が進み夜間の診療に若干心配の点がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、本人、家族と話し合いは行っている。医療連携について、役場に要望を伝え、体制作りに取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないように細心の注意をしている。又、個人情報管理は管理者の指示で厳重に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や希望にあわせ、無理のないように自由に自分のペースで楽しく暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員、たまたま来訪中の利用者の家族が同じテーブルを囲んで同じものを一緒に楽しく食べている。後片付けや台拭きも職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるように支援している。又、ハーブ湯やゆず湯など季節感が味わえる工夫をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の準備、後片付け、保育園児とのふれあい等無理のない程度の役割や楽しみ事を作り出す働きかけを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化が進み日常的な外出はかなり厳しくなっているが、近くのスーパーでの買物や公園での散歩、神社の参拝等出来る範囲で支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は地元消防団の協力を得て定期的に行っている。又、運営推進会議に毎回地元消防団の団長が出席し、災害時の避難方法や対処法等について指導を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分量は大まかに把握しており、利用者の嗜好や希望を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は民家作りで家庭的な雰囲気があり、畳間やソファーが配置され居心地よく過ごせるように工夫されている。又、観葉植物や季節の花が飾られ、利用者は安心して落ち着いた生活をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具やテレビ、家族の写真等慣れ親しんだ物が多く持ち込まれている。又、季節によってカーテンを取り替えたり、スダレを使用したりして季節感をうまく取り入れ居心地よく過ごせるうに工夫をしている。		